Kusa:(No. 077)
Hibariyama. Vol. 4 (
へ13
3913
1

雪月山蓮糸織初編
上
弘化
丙午
新
板

両へ13
絵3913
1

中將姫一代記

雲雀山蓮糸織

初編 上の巻

玉蘭齋作
歌川貞秀画

弘化三午歳 東都両國吉川町
青陽新刻 大黒屋平吉板

夫古へ長く數事多く中ふも華の君子眞直成針を持て魚を釣る一老人鋏槌の頭を礪針とせ又我朝ゆて大和國當麻寺の什寶ふ中將姫の蓮くり糸を取て織成處の物語を綴て一冊子とす童男童女ふ弄とせんと春の日の永く心をし長く命長ごきの種とすべしと云

時弘化三丙午歳

玉蘭齋識

難波大臣
豊成公後の室邪心ふかく鬼をもつて
中将姫を傷ましむ心根を此所に画面した

岩手の方

竹岡信綱の三子の
中に生る女子
阿佐美

初悪女なれども後女公を討し姫の妨をのぞく

右大臣豊成公之像

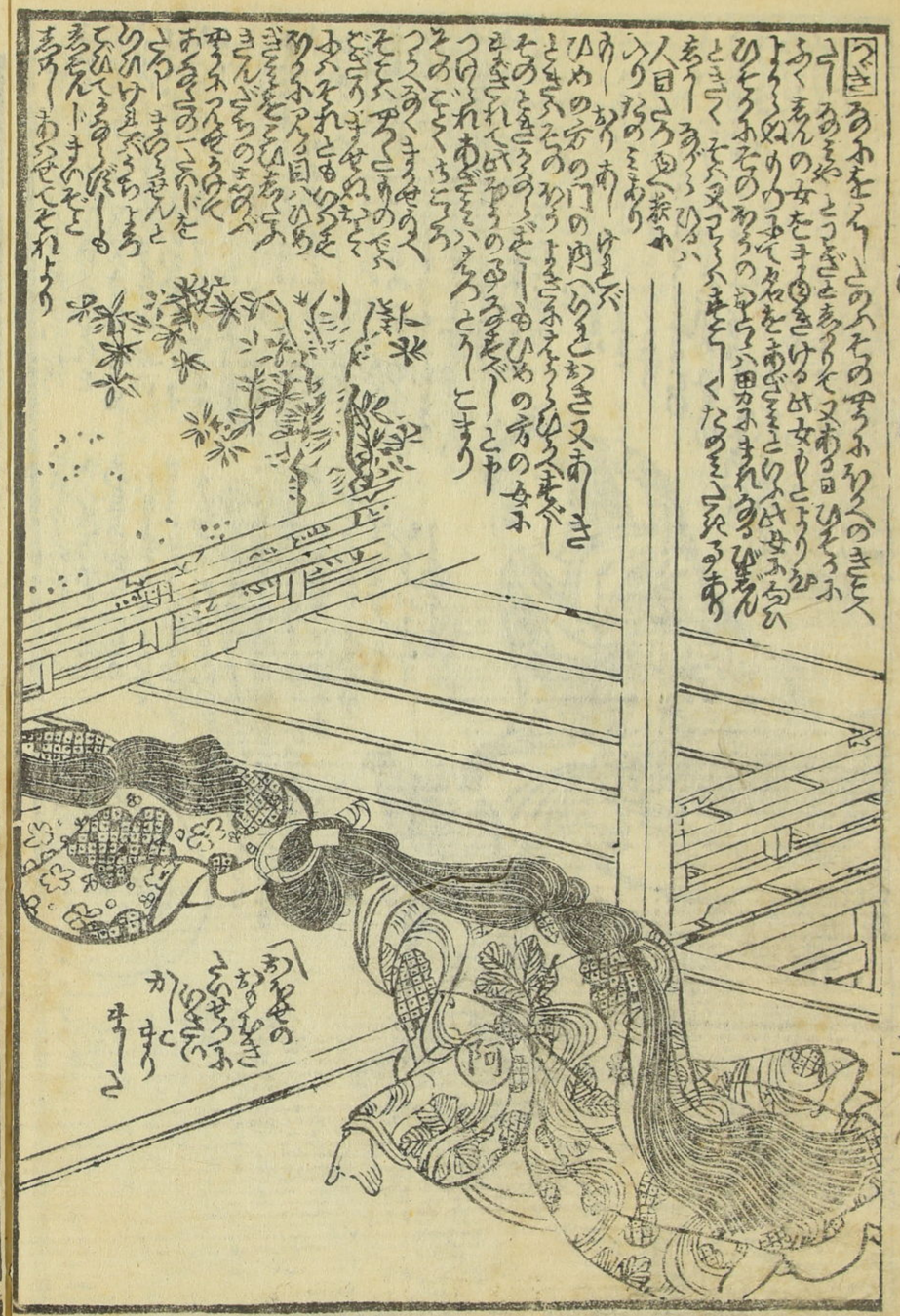
結ふのきくみ君ぎの
こちびゝん父そはいしき
ひめのすみゝく

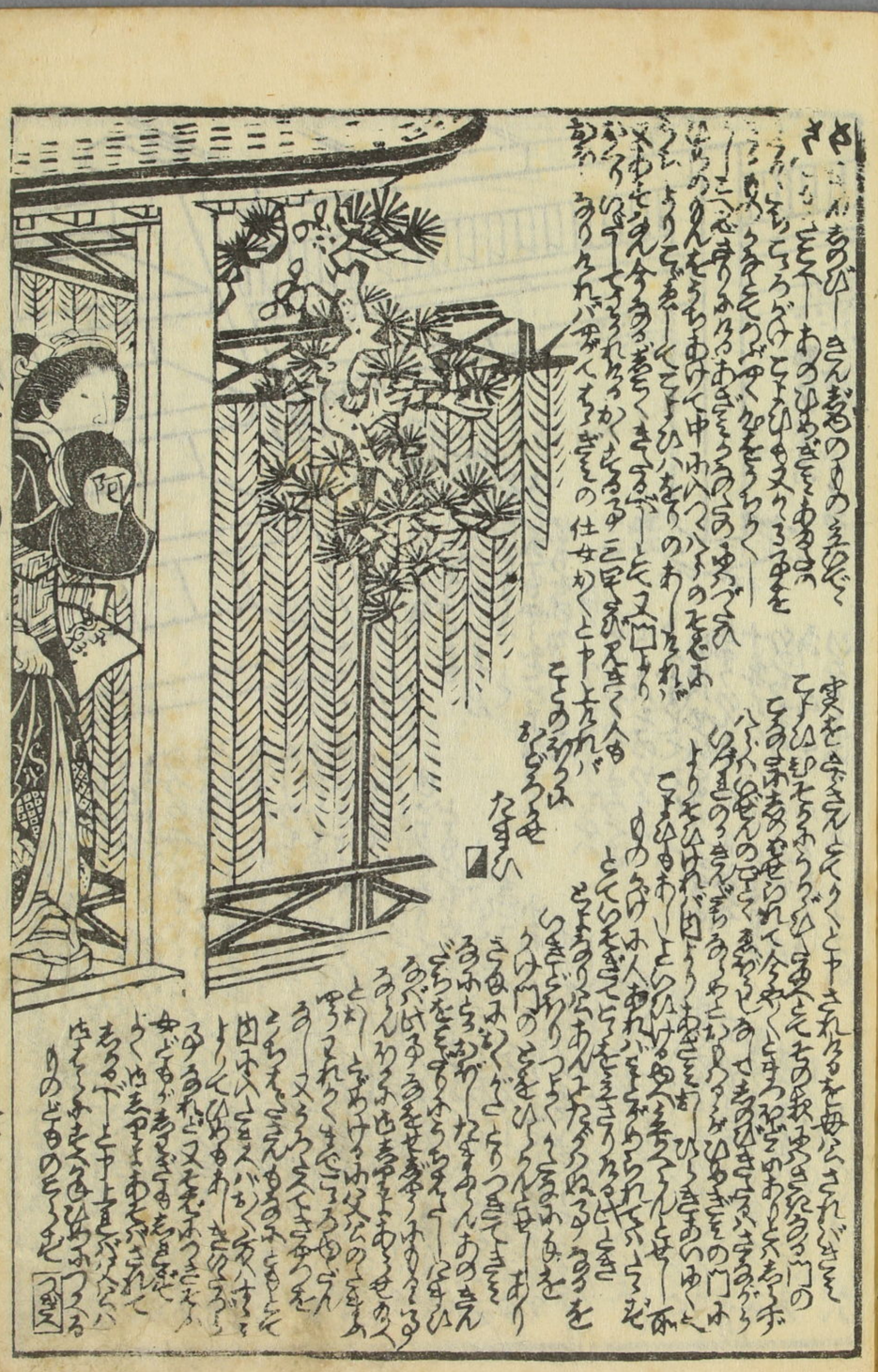
竹岡十郎
經義
雲雀山小異形の
出立て姫を
もとめ

繪の工間玄番
惡戒

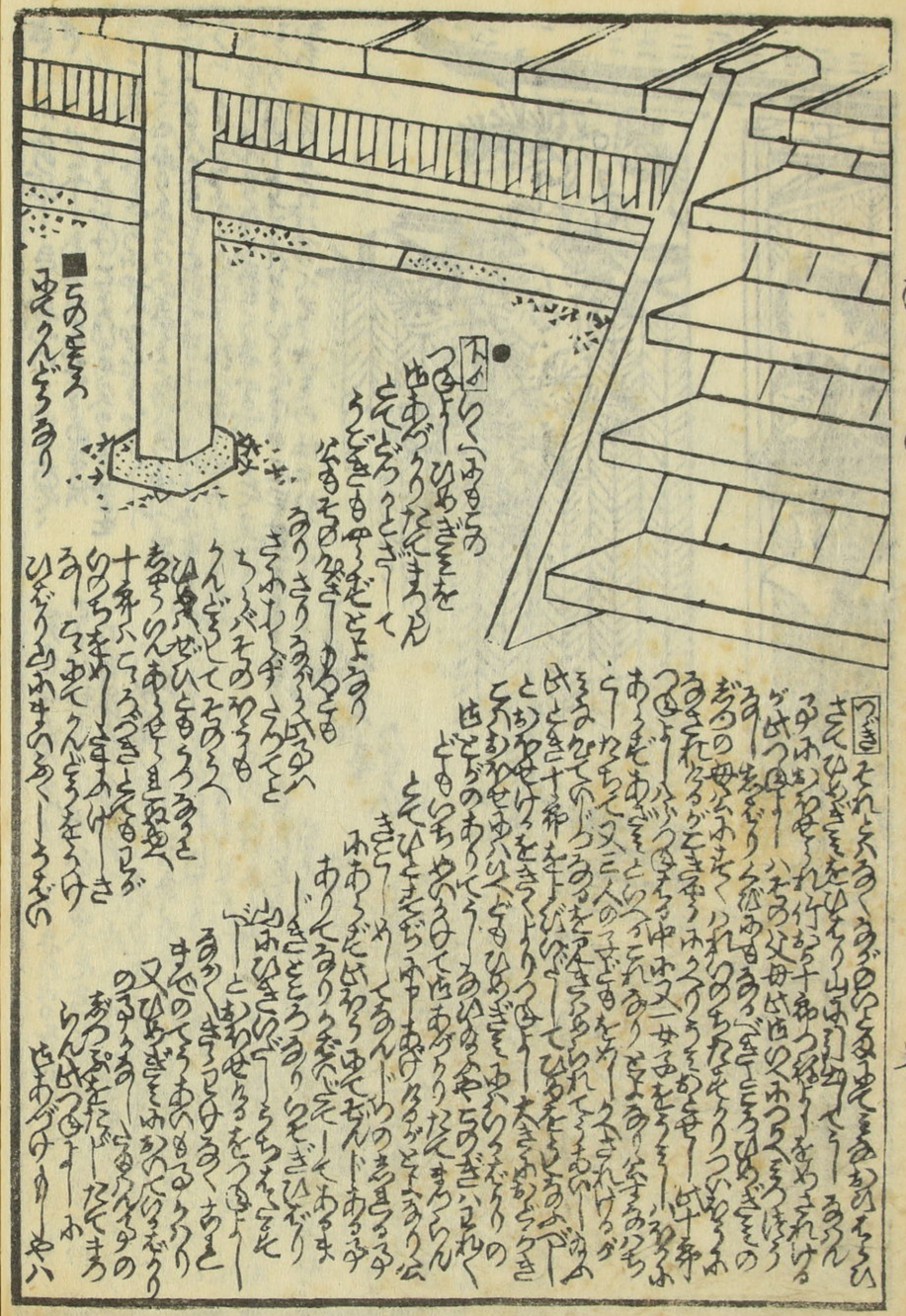
右大臣豊成公の
御息女中將姫

蓮の糸をよりて
織て曼陀羅を
成就せ
竹岡十郎
經義妻
白萩





春



經

玄

春

つゞき

かくてその日もくれおくる日の
春のゝめこころぼそくひあを
うきまのゝせてひぐらしぬと
らをぐるゝゆるのくまげんぞ
竹ゐろ〳〵くもあ人ぢをまを
ことげんぢゝゐゝとりとひて
ねどろくひぐらしぬゆぞ
つきゐゐけり
ゆ
うんでたゞれとうゐ
朱のゐくとゐ又ゐろゐゐとぞく事
竹ゐのぶつまぐの
ぐゐとぐのゐむ
ゐとぐぶゐゝ
けどところへのぶゝるものいそで三人の
子どもせのゞゝ大ぢゐゆゝ
されゝちの母ハこのところをぶ
さゐぢゝゝちゐけゐゐとの
ぐゐのをとゐゐひゐ紙ゐちゐ
ゐゐひゐかれをまゐをなまゐゆ
後へんゐゐくゐぶをゐり
玉蘭作
貞秀画

玉蘭齋作
歌川貞秀画
(下)
松壽堂梓

中将姫一代記

初編 下巻

玉蘭齋作

歌川貞秀画

弘化三
午春
新板

松壽堂上梓

将

春

将
玄

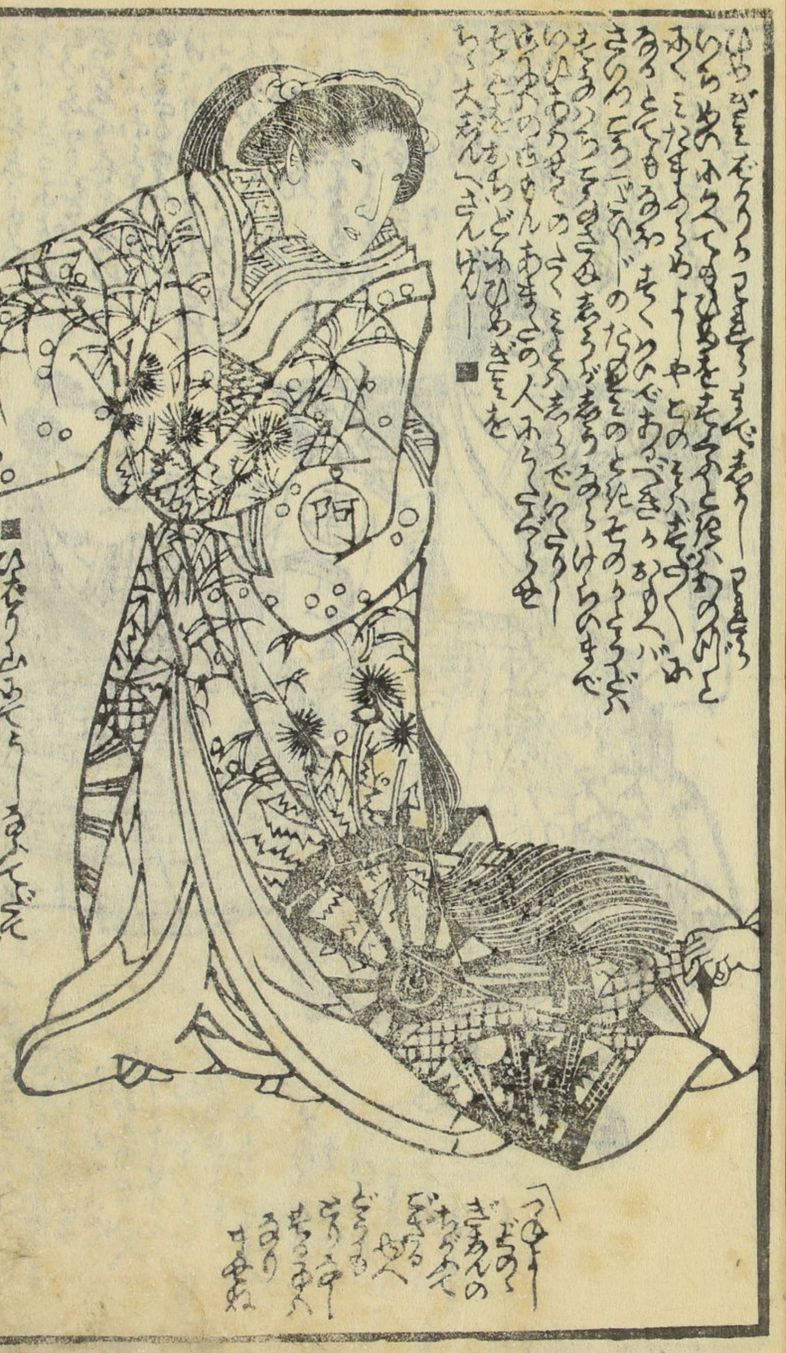
経
妙

将

阿

白

白


阿

春

春

弘化三午初春新板

雲霍山蓮糸織 初篇 玉蘭齋作 二篇 貞秀画

國字水滸傳十八篇 松亭主人作 國芳画

相撲四十八手 中本 全一冊

地本錦繪製本所 東都両国吉川町 大黒屋平吉

十三
十五

寿家

寿家